

経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県山形市 市立病院済生館

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	ド透未訓方	救臨が災地
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
240,441	41,950	非該当	非該当	7:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
528	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	528
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
502	-	502

グラフ凡例
■ 当該病院値(当該値)
— 類似病院平均値(平均値)
□ 令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

機能分化・連携強化 (従来の縦横・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

地域の基幹病院として、全体的に急性期を担い、一部疾患によっては高度急性期を担っている。
 加えて、公立病院の使命として「断らない救急」を掲げ、地域の救急医療に貢献している。地域医療支援病院などの各種指定に基づき、『安全で安心できる質の高い医療の提供』『健全経営』を目指していく。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、昨年度に引き続き新型コロナ関連補助金を計上したことで、大幅な黒字となったが、②医療収支比率(93.2%)および③修正医療収支比率(90.3%)は、新型コロナ発生前の水準まで戻り切れていない状況。
 ⑤入院患者1人1日当たり収益は微増傾向が続いている一方で、④病床利用率および入院・外来患者数がコロナ前の水準まで戻り切れていないことが要因の一つと考える。
 加えて、⑦職員給与費対医療収益比率、⑧材料費対医療収益比率の高止まりが続いており、収支を圧迫している。
 引き続き、地域に貢献できる病院を目指しながら、経営改善の努力を行っていく。

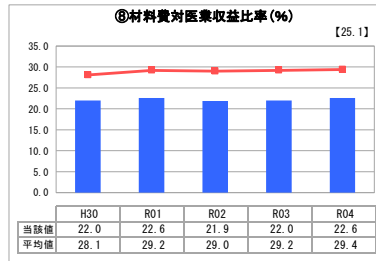
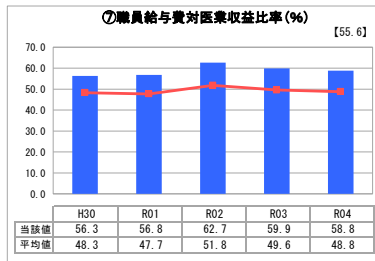
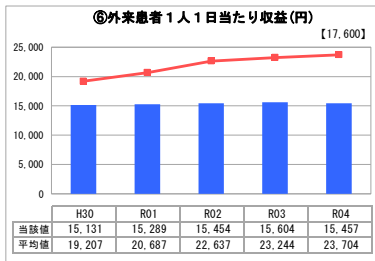
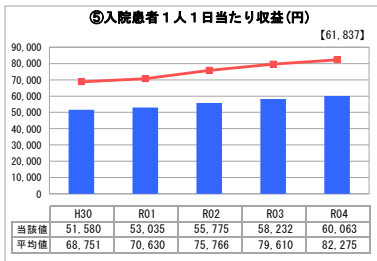
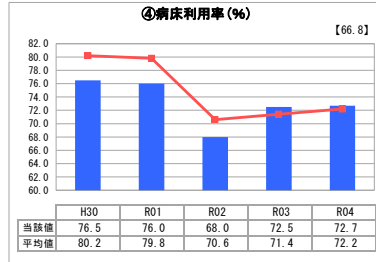
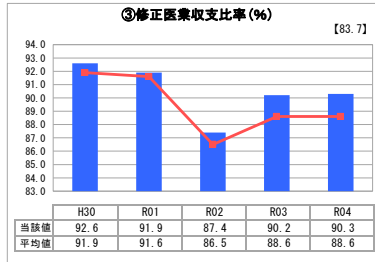
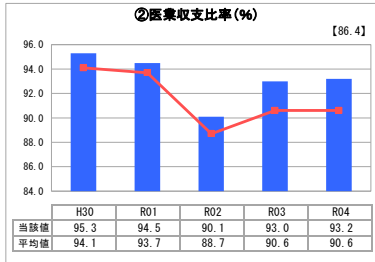
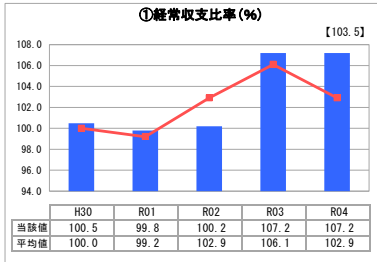
2. 老朽化の状況について

病院建物については、築年数が30年となり、①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率のいずれも「類似病院平均」を上回っている状況。
 施設の老朽化、狭小化の状況等を踏まえて、令和3年度には「新病院整備基本構想」を策定する等、新病院整備事業をすすめていることから、将来を見据えた機器整備を行っていく。

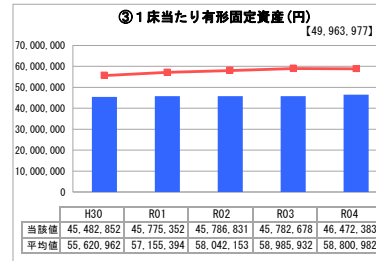
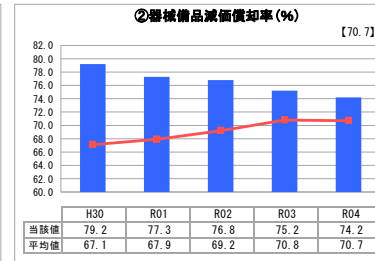
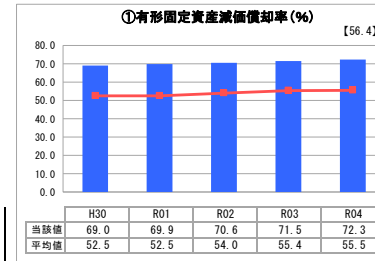
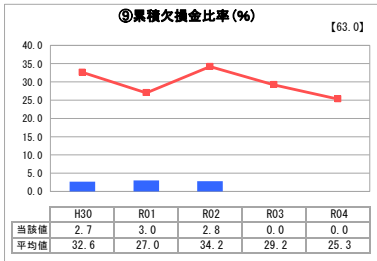
全体総括

令和4年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症対応の補助金により、経常収支比率は大幅な黒字となっているが、医療収支比率、修正医療収支比率はコロナ前の水準まで戻っておらず、厳しい経営状況が継続している。
 新型コロナウイルスは令和5年度に5類感染症となったものの、依然として感染症対策を継続していることに加えて、世界的なインフレ等により、医療材料や光熱水費を中心に経費の増加が見られていることも、将来への不安材料となっている。
 今後は新病院整備に向けた動きが加速していくが、足下の病院経営の安定化が重要であり、引き続き地域の診療所との連携を深め、地域における公立病院の役割を果たしていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。